

それから18年経ったある日、久しぶりに塩谷課長から電話があり、話を聞いてみると課長いわく「私個人的にはゴルフの練習用に面白いと感じ、長い間利用していたが、ボールがボロボロになり紛失もしたりして」との事。

再度ボールを造ってあげたら菓子折りを持って喜んで私の自宅まで取りに来ました。18年も利用していたのならこれは本物か？と自問自答してみました。本格的に製造してみたいと確信しました。その事が第一のきっかけになったものと思料されます。

Q 普及はどんな方法でされたのですか？

A 始めは地元の川口市役所の体育課へ訪問しました。それから、関東地区の役所の体育課へと足を延ばし、学校関係では東京大学、明治大学、法政大学 etc と普及目的で訪問しました。

東京大学では安田講堂の横にテニスコートが有り、東大生がテニスをしていたので、硬式ラケットでテニスの後衛プレーヤー同士で打ちあって貰いました。ボールはドラスティクな弧を描いて飛んで行き、結構魅力的な面白さを感じました。これはひょっとしたらTBGの他に一つのスポーツが生まれるのではと直感しましたが、TBGに専行していたので、それはそのままになってしまいました。今ならもう一度チャンスが来たら考えてみたいです。

Q テレビ等の取材が多かったと聞きますが、エピソードとかはありますか？

A テレビの取材で大橋巨泉さんがブルいました。スタジオで巨泉、タモリ、ナインティナイン、関根勤各氏によってTBG体験取材がありました。

ナインティナインの岡村さんが頭の上に直径20cm程の籠を乗せ、顔にプロテクターを付けて立っている。そこへ10メートル程のアプローチでボールを入れる競技の設定でした。

これには巨泉さんも手古習^{てこず}っていて、取材が終わってから私の所に来て「野嶋さんこのゴルフは難しいね、どこの国から流行って来たの？」と聞かれたので、私は「日本です」と答えました。

巨泉さんは「あ、そう、僕はずうずうしいから取材でブルった事はなかったが、今日は本当にブルった。この用具が欲しいからうちの営業部長をまわすから話を聞いてとの事だったので、巨泉さん若しお気に入りなら今日スタジオで使った用具を全部差し上げますと言ったら、喜んで持って行きました。

タモリさんはアプローチで岡村さんの顔面にTBGボールを打ち付けたので今度は岡村さんが何かムニャムニャ言いながらタモリさんに怒っていた。タモリさんは岡村さんに向かってカメラを振ってもらったからオイシーだろうの様な事を言っていたが、どう言う意味か私には解らなかった。